

序

～第2版の発行に寄せて～

本書の初版が2015年9月に発行されてから6年が過ぎた。この間に起きた最大の社会的出来事は、新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）であろう。日本においては、2020年4月7日、首都圏などを対象に第1回の緊急事態宣言が発出され、これを書いている現在（2021年9月）は第4回の緊急事態宣言中である。しかし、現時点でも、収束の兆しはみえない。

このパンデミックにおいて、日本の教育は大きな影響を受けた。大学も高校も義務教育も、今まで当たり前に行われていた対面授業ができず、オンライン授業に移行せざるを得なかった。特に大学や専門学校などの高等教育では、学生の行動範囲が広いなどの理由により、対面授業がいまだ十分にはできていない。また、理学療法士（PT）や作業療法士（OT）などリハビリテーション専門職（リハ職）を含む医療系教育は、病院や施設などにおける臨床実習を十分に行うことができず、大きなマイナスの影響を受けている。このような状況の中で、リハ職教育を少しでも効果的に行うための工夫をしたいと第2版を企画した。

ADL（日常生活活動）はリハ職にとって最も重要な概念であり、実践技術である。そのADLを効率的に理解し、習得するために、ADLの介助法と指導法の動画を追加した。誌面上のイラストに付したQRコードからWi-Fi経由でアクセスできる22個の視聴覚教材——2視点同時動画（声掛け例付）——は、脳卒中と脊髄損傷四肢麻痺の患者さんを想定し、リハ職が習得すべき重要な基本動作について示している。学内講義の予習・復習のため、学外実習のADL指導チェックなどのため、スマートフォンで簡単にアクセスできるようにした。また、「脊椎疾患」の章立てを新たに施し、いくつかの項目は「コラム」において深く掘り下げた。これらにより、読者のよりスムーズな学習が可能になると考えている。

本書の初版では、技術習得が円滑に進むよう、イラストを多用してADLの介助法と指導法をわかりやすく解説した。そのコンセプトは多くの読者に理解され、受け入れられたと感じている。この第2版の動画も同様に授業で有効に活用いただくことで、教員にとっては授業が行いやすくなり、初学者や学生にとってはADLがさらに理解しやすくなることを期待している。そして、しばらくパンデミックが続き、オンライン授業が続いたとしても、効果的なADL授業を行うことに寄与できるものと考えている。

本書については、今後も改善を重ねるつもりである。患者さんのADL場面の動画もいつかはお届けしたく、そのためにも読者の皆さまからの改善に向けての前向きなご意見をいただきたい。最後に、本企画を実現に導き、作成にあたっては詳細なお世話をしてくださった冨塚達也様をはじめ羊土社編集部の方々に深謝申し上げたい。

2021年9月

柴 喜崇
下田信明